

I 法人の概要

建学の精神

建学の精神は、『教育は愛なり』である。この建学の精神は、「学生生徒一人ひとりをとことん大切にする。」本学院創立者鶴虎太郎の教育実践から生まれた。

また、この建学の精神は経営の基本理念でもあり、この基本理念に沿って、大学及び短大にあつては「信和・協同・実践」を教育理念として教育目標を設定し、高校にあつては教育方針を設定している。

教育分野においては、学生生徒の目線に合わせたさまざまな改革・改善を意欲的に取り組んでいる。一方、事務分野においても、これを支援して学生生徒の満足度を一層向上していくために経営の基本方針及び具体的方針を設定している。



教育目標等

□大学（出会えた、見つけた、未来の夢）

- ・ 講義、実験、野外実習などを通して、学生の個性と自主性を育みながら、基礎学力を修得する。
- ・ 学生同士、勉学や大学での社会的活動を通して協力することにより、視野が広く社会性に富む人材を育成する。
- ・ 大学で学んだ実学指向の専門知識・経験を社会で活用できる人材を育成する。

□短大（出会えた、見つけた、未来の夢）

- ・ 国家資格を有する自動車整備士を養成する。
- ・ 幅広い教養を基礎に、問題解決能力を育成する。
- ・ 分かりよい授業を心がけ、学生満足度を向上させる。

□高校（明るく楽しく感動にみちあふれた学校）

- ・ 確かな学力
自己の未来を切り開くために必要な、目指す進路に対応できる高い学力を育成する。
- ・ しなやかな創造力
あらゆる局面において、常に自己の才能を十分に引き出せる柔軟な思考力を育成する。
- ・ 幅広い視野
国際社会を生きるために不可欠な、グローバルに物事を見ることができる能力を育成する。

学生生徒等の満足度の向上を支援するための方針

①基本方針

- ・ 学生生徒等顧客を大切に、職場を明るくする。
- ・ 調和のとれた仕事の流れを作り上げる。
- ・ 自ら能力開発に努める。

②具体的方針

- ・ 本学院全体の連携強化と学生生徒等顧客へのサービス向上に心がけるとともに、明るく働きやすい職場の実現に努める。
- ・ 業務改善の視点を持って自己点検を行い、「最少の経費で最大の効果」が得られるよう、迅速かつ効率的な業務の遂行に努める。
- ・ 職員一人ひとりがそれぞれの達成すべき目標を定め、常に新しい分野に興味を抱いて、知識の涵養を図るとともに、自己研鑽に努める。

Ⅱ 事業の概要

法人

法人運営事業

項目	事業計画	備考
① 事務組織改編に伴う部署の移設	<p>○事務組織のスリム化・効率化を図り人件費を抑制するため、部等の組織を改編（統廃合）</p> <p>【事務組織の改編】</p> <p>◇平成24年度時点</p> <p>◇平成25年度時点</p>	25年度
② ホームページのリニューアル	○各学校・学部・学科がそれぞれ管理していたホームページは、基本デザインの統一化を図り、併設する大学、短大、高校がまとまり感のある分かりやすい構成にすることでPR効果を高める。	25年度
③ 老朽校舎の耐震化	○喫緊の課題である高校校舎の耐震強化は、その対応についての方向性を探る。	25年度
④ 教育振興寄附金事業	○昨年度に創設した大学、短大、高校の教育研究環境整備の充実を図ることを目的とした寄附金事業は、継続して取り組む。	23年度～ (継続)
⑤ 経費削減	○予算執行にあたっては執行時に徹底した管理を行い、不要不急のものは見直しをするなどし支出を抑制する。	23年度～ (継続)

大学

大学運営事業

学生に最高の教育を提供

項目	事業計画	備考
①教育内容の充実	<p>(1) キャリア教育（全学部の学生を対象）</p> <p>①「自己の探求」の開講 学生の人間力の向上を図る。 （ラーニングバリュー社が開発した導入教育・初年次教育のためのプログラムを用いる。）</p> <p>②学部基礎科目「キャリアデザイン」の開講 3年生を対象にして実施し社会人基礎力の養成を目指す。 （ベネッセコーポレーションに委託）</p> <p>③基礎能力適性検査の実施 1年生は大学基礎力の調査及び3年生就職適性検査を実施する。</p> <p>④基礎力の調査 I 1年生対象：キャリアデザイン講義関連で、自己発見レポートを作成する。</p> <p>⑤ガッツ石松客員教授による講演会（年2回） キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>18年度～ （継続）</p> <p>18年度～ （継続）</p> <p>（継続）</p> <p>（継続）</p> <p>25年度</p>
	<p>(2) 入学前教育（事前教育） 推薦入試等で入学が早期に確定した者を対象に、通信添削とスクーリングを実施する。</p>	（継続）
	<p>(3) 資格取得関連 （各学部が資格取得のために特別に行うもので特別教育費の補助があるもの。）</p> <p>①CCNA シスコ社が認定する資格を取得するため授業シリーズ（インターネット基礎、ネットワーク管理、LAN設計、WAN設計）の開講と機器更新及び契約を継続する。</p> <p>②電気工事士 資格取得のための授業科目は集中講義で、実技指導は個別指導を含めて特訓し、第1種及び第2種電気工事士の筆記試験と実技試験をサポートする。</p> <p>③社会調査士 社会調査協会が認定する社会調査士等の資格を取得するための科目を開講するとともに、課外のフィールドワークをサポートする。</p> <p>④TOE I C 英語のリスニングとリーディングの能力テストの受験対策と受験料の補助を行い、英語能力の向上を図る。</p> <p>⑤日本語能力試験 模擬試験の実施や受験料の軽減等で留学生の受験支援を行うとともに継続的な日本語学習を促進する。</p>	<p>（継続）</p> <p>（継続）</p> <p>（継続）</p> <p>22年度～ （継続）</p> <p>（継続）</p>

<p>②教育内容・方法の改善</p>	<p>○アンケート結果に基づいて教育方法・内容・環境を改善</p> <p>①学生による授業アンケート 前期及び後期に実施し、データ分析はヒューマンリンク社に委託する。分析結果に基づいて教員が授業改善を図る。 分析結果や改善計画については、学生及び教職員に公開する。</p> <p>②学生満足度調査 全学部生を対象に年1回実施し、大学での学生生活に関する全ての事項について調査し、満足度向上に活用する。</p> <p>③卒業アンケート 卒業生を対象に大学の学生生活についてのアンケート結果を学長、学部長が学生の満足度向上の参考資料として活用する。</p>	<p>20年度～ (継続)</p> <p>20年度～ (継続)</p> <p>(継続)</p>
--------------------	--	---

個性化と特色化

項目	事業計画	備考
<p>国際協力・国際交流</p>	<p>○外国の大学や研究機関と協定を結び、共同研究や学生の教育を実施</p> <p>①タイ農業省・ARDAとの国際協力 教員、研究者、学生の相互派遣による教育・研究を推進させる。</p> <p>②インドのラベンシャウ大学との国際交流 新たに協定を結んだラベンシャウ大学と学生交流や共同研究などを推進させる。</p> <p>③韓国の漢城大学やオーストリアのリンツ芸術工科大学との交流 漢城大学やリンツ芸術工科大学との交流を推進させる。</p> <p>④留学生交流会 学生課と留学生愛好会が主催する交流会で、本大学に在籍する留学生同士、留学生と本大学教職員や学生との懇談を通して、本大学での学習生活を円滑にする。</p> <p>⑤異文化体験 スクーバダイビングの研修を兼ねて太平洋諸島に1週間滞在し、異文化に興味を持たせたり、第2次世界大戦激戦地を訪問し平和についても考える。</p> <p>⑥異文化体験と語学研修 米国又は台湾を訪問し社会学のフィールドワークを体験するとともに、現地の人々と英語又は中国語で会話をすることにより、外国語会話力の向上を図る。</p>	<p>20年度～ (継続)</p> <p>23年度～ (継続)</p> <p>24年度～ (継続)</p> <p>21年度～ (継続)</p> <p>19年度～ (継続)</p> <p>21年度～ (継続)</p>

施設・設備等の整備充実

項目	事業計画	備考
①施設等の改修・修理	○本大学が使用する施設等の修理・改修 ・野球場の表土の入れ替え ・10号館エレベーター修理 ・太陽光発電モニター設備の修理 ・学生会館食堂厨房機器修繕	25年度
②学習環境の整備充実	(1) 専門教育関連（各学部が目指す人材育成のために必要な教育内容の充実・改善として実施） ①ガスクロマトグラフ質量分析計の設置 食農サイエンスコース新設に伴う設備であり、食品衛生管理者養成施設に欠かせないもの。 ②デザイン系授業維持費 情報デザイン学科のデッサン・イラスト等の授業の消耗品費 ③卒業制作選抜展の開催 情報デザイン学部生の到達点を学内外に公表するもので、会場経費チラシ印刷経費及び作品製作費を負担する。 ④ゲーム実習室維持 ゲーム実習室の機器、ソフトなどの充実を図る。 ⑤メディア・ソーシャルネットワーク系授業維持費 メディアエンターテインメント、ソーシャルネットワークに関する科目の維持費 ⑥食農バイオコースの実験設備充実 実験台及び低温乾燥機を購入する。 (2) 学生の学習に必要な施設や環境の整備として実施 ・中野グラウンドの夜間照明装置を設置する。	25年度 20年度～ (継続) 19年度～ (継続) 22年度～ (継続) 25年度 25年度 25年度

高大連携の充実

項目	事業計画	備考
高大連携・出張講義	○系列高校や協定締結している高校との間で特別講義等の実施、あるいは依頼された高校に出向いて生徒に興味深いテーマや話題性のあるテーマについての講義を実施する。 ① 生産工学学科 ② 食農バイオ・リサイクル学科 ③ 情報デザイン学科 ④ 現代社会学科	21年度～ (継続)

地域連携

項目	事業計画	備考
社会貢献	<p>○本大学の有する物的資源や人的資源を活用して地域社会の発展のために次の①～⑤の項目を実施</p> <p>①袋町キャンパスの公開講座 地域連携センターが主催して袋町キャンパスで本大学教員が一般社会人を対象として開催する語学講座や技術講習を開講する。</p> <p>②瀬野川イルミネーション 12月に瀬野川河川敷で2週間開催されるイルミネーションを地元の区役所や団体等と協力して実施する。</p> <p>③薬物乱用防止教室 麻薬・覚醒剤乱用防止センターから薬物乱用防止教育認定講師に認められた本大学学生が広島フェニックスライオンズクラブと共催で県内の小・中・高校で開催する薬物乱用防止教室を実施する。</p> <p>④教員免許更新講習 小・中・高校教諭を対象に必修講習と選択講習を実施する。 (同窓会受講者には受講料返還する。)</p> <p>⑤地元商工会との研修・交流会 講師を招いて講演を聴き、飲食を共にして懇親を深める。</p>	<p>21年度～ (継続)</p> <p>19年度～ (継続)</p> <p>21年度～ (継続)</p> <p>20年度～ (継続)</p> <p>23年度～ (継続)</p>

その他

項目	事業計画	備考
①学生募集活動	<p>○改組初年度なので、募集活動の一層強化</p> <p>(1) 直接的募集活動</p> <p>①広報・広告等の充実 ・新聞、テレビ、ラジオ等による宣伝</p> <p>②高校訪問 ・入試相談員(3名)による高校訪問 ・教職員プロジェクトチームによる高校訪問</p> <p>③本大学主催入試説明会の実施(高校教諭対象)</p> <p>④高城教友会・系列高校との連携</p> <p>⑤オープンキャンパス ・6、7、8月に各1回</p> <p>⑥大学説明会 ・7、9月に各1回</p> <p>⑦進学説明会等 ・本大学主催進学相談会 ・業者主催進学説明会等 ・高校内説明会 ・会場形式入試説明会</p> <p>⑧大学随時見学</p> <p>⑨大学案内全面改定に伴う経費</p> <p>⑩新学部告知の徹底に伴う上乘せ分 学生募集戦略検討会議で決定する戦略・戦術を適宜取り入れての募集活動</p>	<p>(継続)</p> <p>25年度</p> <p>25年度</p>

①学生募集活動	(2) 間接的募集活動 ①高大連携・出前授業 ②きめの細かい丁寧な教育 ③就職支援	(継続)
②就職支援	○就職率向上のために実施する各種行事 ①企業と大学の情報交換会 本大学の卒業生が就職している企業の幹部や採用担当者と本大学教職員が情報交換し、企業には本大学について、教職員は企業の現況や必要とする人材像について理解を深める。 ②学内合同企業セミナー 3年生を対象に本大学で開催する企業セミナーで、教職員との名刺交換会と学生への企業説明会を実施する。 ③教育懇談会及び就職懇談会 1、2年生の保護者を対象にした教育懇談会と、3、4年生の保護者を対象にした就職懇談会を開催する。 ④就職課の就職支援講座 就職活動に必要な社会人基礎力等を要請するため、1、2年生はキャリア教育、3年生はビジネスマナー講座を開催する。	22年度～ (継続) 18年度～ (継続) 23年度～ (継続) 25年度
③教育研究等運営	○今年度、項目以外のもので必要するもの ・学習支援室の整備 ・情報デザイン学科主催イベント ・大学祭イルミネーション ・PCB廃棄調査費	25年度 25年度 25年度 25年度

短大

短大運営事業

学生に最高の教育を提供

項目	事業計画	備考
①とことん面倒を見る教育の強化	(1) 入学前事前教育 ・通信添削による事前教育を実施する。	(継続)
	(2) 入学後の学習動機付け教育 ・「クルマの整備業」(前期)、「就職対応ゼミ」(後期)を開講する。	(継続)
	(3) 外部講師による興味ある講演 ・就職対応ゼミでの社会マナー、面接対応を指導する。 ・塗装ゼミでのテクニック講義等を実施する。	(継続)
	(4) 改善に繋がる授業アンケートを実施する。	(継続)
	(5) 留年・退学学生数の低減活動 ・新たな対応策の追加検討と試行 ・習熟度別授業の継続 ・欠席がちな学生や進度不振の学生の早期発見・早期対応活動 ・工学演習等進度不振者の出やすい科目授業の工夫	(継続)
	(6) 整備士等各種資格取得の支援 ・現行の指導システムで支援していく。	(継続)
②カリキュラム改革・キャリア支援等	(1) 学生の興味を引くカリキュラムの検討 ・ゼロハンカーゼミ、板金・塗装ゼミ等実施系ゼミを継続する。 ・二輪車ゼミを追加する。	(継続) 25年度
	(2) 学生生活の満足度向上 ・学生交流会(入学時、水無月祭、クリスマス)、研修旅行(8月)等を実施する。 ・学生同士、学生と教員とのコミュニケーションを促進させる。	(継続)

就職・キャリア活動支援

項目	事業計画	備考
就職支援活動の強化と多様化	(1) 3点セットによる就職支援	(継続)
	(2) 企業と短大との良好な信頼関係の維持 ・就職に関する信頼関係の維持 ・年1回、重点企業(60社)との情報交換	(継続)
	(3) 整備業以外の求人先の拡大と開拓 ・整備会社以外の就職希望者に対し、求人先の拡大、開拓の活動を実施する。	(継続)

施設・設備等の整備充実

項目	事業計画	備考
教育環境・設備の改善	<p>○教育環境の整備として次の①及び②の充実を図る。</p> <p>①装置・教材の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二注リフトワイヤ交換 (安全確保のため10台分交換) <p>②建物設備の改修、改善、充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽プロア修理 ・厨房機器保守契約 ・6号館エレベーター改修 ・当直業務委託 ・消火器更新 	25年度

地域連携

項目	事業計画	備考
地域貢献	<p>(1) 地域参加型のイベント実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自短夏祭り（レトロバス試乗会、子供会太鼓演奏等）を開催する。 ・ゼロハンカー競技会を開催する。 	(継続)
	<p>(2) 環境美化キャンペーン実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大周辺の美化活動の内容を検討しながら、実施する。 	(継続)
	<p>(3) 地域貢献イベント</p> <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイヤ交換、オイル交換等マイカー点検講座を近隣住民対象に開設する。 ・レース等出場者支援の講座を開設する。 	25年度

その他

項目	事業計画	備考
①自己点検・評価活動	○第三者認証評価受審 2回目となる第三者認証評価を受審する。	25年度
②経費の有効活用	○認可予算内での計画的な予算執行を行う。	(継続)
③入学定員の確保	<p>(1) 定員確保に関する各種事項の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備士の重要性や本学短大に対する認識等調査事項の検討と実施する。 (内容により外部委託も検討する。) 	25年度
	<p>(2) ホームページと広報資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ保守、新規更新、広報資料 (ホームページ保守は毎年、新規更新は3年ごとに実施、広報資料は毎年作成する。) ・自動車短大アピール用パンフレットを作成する。 	(継続)
	<p>(3) オープンキャンパス・体験入学の魅力アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント付のオープンキャンパスを年4回程度実施、体験入学を年1回実施する。 	(継続)

③入学定員の確保	(4) 高校訪問の効果的実施 ・訪問校、時期、持参物等を検討し、計画立案を行う。 (県内を年4回、県外を年1回程度訪問を実施)	(継続)
	(5) 出前授業等による短大の魅力を紹介 ・自動車に対する興味、関心喚起のため積極的に参加し、実車、模型等を使って整備の重要性、短大の魅力を紹介する。	(継続)
	(6) 重点高校との情報交換会の実施 ・信頼関係の強化、持続のため、説明・懇談会を適切な時期に実施する。	(継続)
	(7) 入試関連 ・入試日程・種類、選考方法等を検討する。 ・入試要項を作成し入試を実施する。	(継続)
	(8) 入試広告関連 [主要事業] ・これまで大学の、入試課で一括して管理していた予算の短大分(マイナビ、リクナビ、さんぽうなど)、短大リーフレット分について、短大へ配分されることを機会に、より一層短大の入試広告の充実を図る。	(継続)

高校

高校運営事業

生徒に最高の教育を提供

項目	事業計画	備考
①アンケート調査の実施	(1) 生徒による授業アンケート（評価）を実施 このアンケートについては、現況(時局)に適した評価を得られるものであるか、一度検証する。	16年度～ (継続)
	(2) 生徒による学校・学級生活満足度アンケートを実施 前記(1)のアンケート結果と合わせて、本高校教員の授業力向上及び生徒の学力向上を図る。	23年度～ (継続)
	(3) 体罰に関する調査 本高校では体罰のほか、いじめ、ハラスメントの撲滅を目指し、教職員、生徒ともにこれらを未然に防止するための啓発活動や調査を実施する。	24年度～ (継続)
②新入生特別活動の実施	○新入生集団宿泊(江田島青少年交流の家)研修を実施し、新入生には本高校生徒としての心構えを認識・確認させるとともに、カッター訓練等の経験を通して対人関係力などの能力開発を行う。	(継続)

施設・設備等の整備充実

項目	事業計画	備考
①学校運営システムの運用	○学校運営システムは、より一層の有用活用を目指して改良を加えながら運用する。	18年度～ (継続)
②生徒用図書検索パソコンの更新	○図書館活動及び読書教育に利用(平成13年3月購入)してきた図書検索パソコンが老朽化により使用不能となったため、新たに購入する。	25年度

国際交流事業の充実

項目	事業計画	備考
国際教育交流事業の推進	(1) 海外の高等学校との交流(平成24年度は「韓国」陵谷高等学校訪問)及び国際教育(平成24年度の短期留学生受け入れは「米国」、「韓国」)を推進する。	25年度 (継続)
	(2) 本高校生徒の1、2年の各クラスより2名選出した国際交流委員によって、留学生等の来校生徒との交流計画の立案及び準備を進め、平成25年10月18日には本高校修学旅行韓国グループが「韓国」土坪高等学校を訪問する予定としている。	25年度 (継続)

高大連携の充実

項目	事業計画	備考
系列大学との連携	(1) 系列大学から本高校へ教員を派遣 ①「おもしろ社会ウォッチング」(平成19年開始) 授業を実施 普通科2学年「総合的な学習の時間」を活用し開講する。 ②「おもしろ技術体験」(平成17年開始) 授業は未実施 平成25年度の受講者が少ないことにより閉講となった。 ③工学部「先端科学」、情報デザイン学科「情報文化」、現代社会学科「国際関係法Ⅰ」の3教科の中から2講座を選択受講 総合学科2学年は系列大学各学部等から週1時間受講(平成23年度開始)	19年度～ (継続) 17年度～ 23年度～ (継続)
	(2) 系列大学教員が本高校の行事へ参加 本高校の行事(オープンスクール・文化祭)で遺伝子工学・バイオエタノール車・水質分析・ロボット・ストラップ製作・中国語会話などの展示・実験・公開講座を実施する。	25年度
	(3) 本高校から系列大学へ教員を派遣 ・本大学の遺伝子工学Ⅰ及び音楽Ⅰ・Ⅱの講義を本高校教員2名が担当(平成21年度から継続)する。 ・本大学の数学の講義を本高校教員1名が担当(平成24年度から継続)する。	21年度～ (継続) 24年度～ (継続)

地域連携

項目	事業計画	備考
地域への奉仕活動 並びに地域との交流 活動	(1) クリーンキャンペーン ①毎週1学級全員による地域清掃活動(クリーンキャンペーン)を年間通して実施 ②月1回の生徒保健委員会による地域清掃活動(継続)の実施	19年度～ (継続)
	(2) グリーンキャンペーン ①各クラスによる植栽プランターの設置(グリーンキャンペーン)を実施 ②今年度からは対象範囲を校外へ広げる予定	22年度～ (継続)
	(3) 「第6回海田町民グラウンドゴルフ大会」 本高校文化祭の開催日に合わせてゴルフ大会を実施し、地域住民に本高校教育の一端を紹介する。	20年度～ (継続)
	(4) 地元盆踊を披露 ・本高校3年生は、体育祭において地元住民の皆様の指導・協力を得て本高校周辺地域の盆踊りを披露し、今年度披露するものはこれから検討することになっている。 ・この試みの初回(平成20年度)は「海田音頭」、それ以降は順次「熊野筆まつり唄」、「東広島音頭」、「新府中音頭」と続き、平成24年度は福島県相馬地方に踊り継がれている「相馬盆唄」を披露してきた。	20年度～ (継続)

生徒募集

項目	事業計画	備考
生徒募集活動	<p>○今年度の募集活動は、次の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付用パンフレット・チラシ・ポスター作成 ・中学校訪問（4～6回） ・各中学校入試説明会（15回程度） ・呉地区中学校合同説明会 ・東広島地区合同説明会 ・各塾での出前公開授業・説明会 ・保護者対象入試説明会（9月8日） ・特進コースオープンスクール（8月下旬） ・私塾対象入試説明会（9月12日） ・オープンスクール（9月22日・23日） ・私学フェスタ（10月14日） ・「国際模試」実施（10月13日） ・保護者対象学校見学会 <p>〔平成23年度：8回実施 参加者合計48人〕 〔平成24年度：8回実施 参加者合計71人〕</p>	25年度 (継続)

その他

項目	事業計画	備考
学校評価	<p>○学校評価（主に自己評価・学校関係評価）を一年度の間及び学期末に実施し、教育活動や組織運営、保護者・地域とのコミュニケーションの充実を図っていく。</p>	(継続)